

## 2020年度 びわ湖トラスト親子環境学習講座 「写生」実施報告書

後援： 大津市教育委員会、草津市教育委員会  
 協賛： 東レエンジニアリング西日本株式会社  
 概要： 滋賀県在住の風景画家、ブライアン ウィリアムズ氏に美しいびわ湖のことや  
 写生を学ぶ。

### プログラム

実施日			8月23日(日)
場所			「道の駅」びわ湖大橋 米プラザ 二階「光彩」
参加者			10組(26名) 子供：14名、保護者12名
講師			風景画家 ブライアン・ウィリアムズ
助手			1名(中学校美術講師)
スタッフ	びわ湖	理事	4名
	トラスト	事務局	2名
	ボランティア		2名
行程			びわ湖や写生講義・写生体験・先生からコメント

本年の「写生」浜大津COVID-19(コロナ)感染防止のため、募集は10組と例年の半分にて実施した。又当選者へは添付の「当選のお知らせ」の通り感染防止策、留意点を詳細に記述して送付した。検温をパスした参加者は例年よりもテーブル間隔を空けて着席し、10時に氏家理事長の挨拶を行い、ブライアン先生の講義を開始した。写生の講義に先立ち、フェイスシールドを装着したブライアン先生は画集「びわ湖ブライアンの目 きれいを明日に」を教科書に「琵琶湖を知ろう！」をテーマに“琵琶湖の大切さ”や“琵琶湖の環境保護”について熱い思いを語った。引き続き写生の講義に移り、画用紙に自ら筆を運ばせて空を描き、山を描き、ヨシを描き、目の前の景色を保護者と生徒に冗談を交えながら見せた。いつもであれば近くによって絵筆の運びを子供達に見せるのだが、コロナウィルス感染症対策により、3回に分け、距離を置いて子供達に写生の技法を見せた。

一通りの説明の後はいよいよ実践。見本を見せてくださった先生のようにうまくいかずに少々嫌気のさす子もいたのだが、先生が上手にほめて下さったり、指導の下ほほ先生が描いてくださったりと子供に寄り添い、楽しく描ける雰囲気を作ってくださいました。



講義開始



ブライアン先生



ちょっと距離をおいて指導



ブライアン先生と



直接指導



暑さの為室内の方が多かった

14時からは作品講評発表会を開始。描き上げた作品を子供、保護者の力作を前に並べ、先生は色づかい・勢い・構図について必ずほめて下さり、参加者は作品に対する褒め言葉に照れつつも笑顔で聞いておられた。

最後はじゃんけんで先生の作品をいただく方を決めた。また、今回はテキストとして、先生の絵画とエッセイ『ブライアンの目』を参加者に贈呈し一人一人に名前入りサインをして頂いた。



並べられた作品



1作品ずつにコメント



講評している先生



講義の後にサイン会

残念ながら握手や密着した写真撮影はなかったものの、写真撮影を求めてこられた方には少し距離を取りつつも気さくに応じておられた。

例年の様に「はっけん号」に乗船しての湖上からの琵琶湖体感は、三密回避から実施できなかったが、ブライアン先生からの直接写生指導を受けて、参加者それぞれが良い夏の思い出を作ることが出来たと思われる。



今回の講義で描いてくださった先生の作品

### コロナウィルス感染症についての影響と対策

- 密状態を防ぐため、募集人数を20組40名から10組20名にし、参加人数の縮小。
- 抽選結果郵送時にコロナウィルス感染症対策に関する専用の案内を発送。事前の健康状態確認など自身で確認していただいた。
- 当日は受付時に全員検温。（受付スタッフはフェイスシールドを着用）
- 講師はフェイスシールドを着用。スタッフも受付・配布時にゴム手袋を着用し、直接触れないよう努めた。
- 各テーブルに消毒液を準備。手指やテーブルの消毒はご自身で行っていただいた。
- 室内の扉を常時開放し、換気に努めた。
- 例年はトイレで絵具セットの片づけを行っていたが、換気もあまりできず、参加者に対してスペースが狭いため、トイレ以外の目的での使用を禁止。水の持ち込み・持ち帰りをお願いし、絵具セットの洗浄も帰宅後行っていただくよう事前に通知した。